

東海生研 ～ メールマガジン 第153号～

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

\*\*\*\* 《もくじ》 \*\*\*\*

- 1. 平成29年度「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業
  - ☆平成29年度第2回セミナーの開催について (10月17日)
  - ☆アグリビジネス創出フェア2017 in 東海 (11月7-8日)
  - ☆平成29年度第3回セミナー (11月21日)
  - ☆その他の行事等
- 2. 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等
  - ☆10年後への中山間地の農業像 (日本作物学会第244回講演会) (9月14日)
  - ☆農研機構 果樹茶業研究部門 金谷茶業研究拠点一般公開 (9月20日)
  - ☆岐阜大学応用生物科学部公開講演会 パンシンポジウム2017 (9月26日)
  - ☆平成29年度野菜花き課題別研究会
    - 「野菜のゲノム情報を活用した育種選抜の現状と課題」(10月25日～26日)
    - ☆第19回全国山羊サミット in ぎふ (11月4日～5日)
    - ☆名古屋大学公開講座「日本の森林と都市の持続的調和」(5月～12月、計7回)
- 3. 地域外でのセミナー・シンポ・会議等
  - ☆近畿地域マッチングフォーラムの開催 (9月20日)
  - ☆アグリビジネス創出フェア2017 (東京ビッグサイト) (10月4～6日)
  - ☆農林水産省等のイベント情報
- 4. 競争的研究資金について
  - ☆「知」の集積と活用場による研究開発モデル事業 (平成29年度第2次公募)
    - (農研機構・生物系特定産業技術研究支援センター)
  - ☆平成30年度科学研究費助成事業 (文部科学省)
  - ☆平成30年度科学研究費助成事業 ((独)日本学術振興会)
  - ☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージⅢ: NexTEP-タイプ
    - (JST)
  - ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ
    - (JST)
  - ☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)
  - ☆平成29年度戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE)
  - 若手ICT研究者等育成型研究開発 (若手研究者枠・中小企業枠) (総務省)

- ☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム (総務省)
- ?民間の競争的研究資金
- 5. 新技術情報について

\*\*\*\*\*

◆1◆ 「知」の集積による産学連携推進事業のうち、知的財産の技術移転加速化事業及び地域産学連携支援事業

☆平成29年度第2回セミナーの開催について

【目的】農林水産・食品産業分野の先進的研究・利用事例、研究開発を取りまく情勢等について理解を深める。また、企業・団体、大学、試験研究機関等の産学官の参加者が情報交流し、東海地域における研究開発とその実用化促進に資する。

【開催日時】平成29年10月17日(火) 13:30～17:00

【開催場所】ウインクあいち(愛知県産業労働センター)13階会議室(1307 1308)  
(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

- ・JR名古屋駅桜通口から ミッドランドスクエア方面 徒歩5分
- ・ユニモール地下街 5番出口 徒歩2分

【演題・講師】

第1会場(1308会議室)

○水産部会 13:30～14:30

「アコヤガイ外套膜から分離した貝殻形成細胞の移植による真珠生産法の開発」

国立研究開発法人水産研究教育機構 増養殖研究所 養殖システム研究センター  
研究開発専門員 淡路 雅彦 氏

○畜産部会 14:30～15:30

「養豚農家で使える受精卵移植技術 ～伝染病侵入の危険が少ない種豚導入に期待～」

愛知県農業総合試験場畜産研究部主任研究員 田島 茂行 氏

○食品部会 15:40～16:40

「食品製造・加工におけるHACCPと危害要因」

一般社団法人食品品質プロフェッショナルズ 水野 俊秋 氏

第2会場(1307会議室)

○トピックス 13:30～14:30

「機能性食品と食品用途特許を活用した健康食品の6次産業化」

SK特許業務法人 代表社員 奥野 彰彦 氏

○林産部会 14:30～15:30

「CLT(直交集成材)利用の現状と可能性、普及への課題」

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所

複合材料研究領域長 渋沢 龍也 氏

○作物部会 15:40～16:40

「接ぎ木技術の可能性と展望」

名古屋大学大学院生命農学研究科助教 野田口 理孝 氏

【技術相談】「技術相談」のある方は当日受付で、案件名、所属、氏名をご記入したものを提出していただきます。当日は時間がございませんので、後日、十分な時間を取って対応させていただきます。

【情報交流会】17:00～18:30（第2会場1307にて開催） 会費2,500円

【参加費】講演会は参加費無料

【参集範囲】NPO法人東海生研会員、農林水産・食品産業関連企業、農業団体、食品関係団体、建築業関連企業・団体、大学・高校等教育機関、国立研究開発法人、独立行政法人、公的試験研究機関、行政機関、その他内容に関心を有する者

【主催】特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

【後援】名古屋大学大学院生命農学研究科、農研機構中央農業研究センター、公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会

【開催要領】<http://www.biotech-tokai.jp/archives/1602>

【申込み】上記開催要領のURLからセミナー申込書を取り出し、必要事項をご記入の上、下記のE-mail、又はFAXでお送り下さい。

E-mail : [bio-npo2@y4.dion.ne.jp](mailto:bio-npo2@y4.dion.ne.jp) TEL&FAX : 052-789-4586

.....

☆アグリビジネス創出フェア2017 in 東海（開催予告）

### 【目的】

「アグリビジネス創出フェア 2017 in 東海」は、農林水産・食品産業分野における産学官連携によるマッチング促進を目的として、農林水産省の実施する「知」の集積による産学連携推進事業のうち知的財産の技術移転加速化事業及び産学連携支援事業の一環として実施します。

本年度は、あいち産業科学技術総合センター・食品工業技術センターおよびNPO法人近畿アグリハイテクと共催し、講演会・セミナーも開催します。

【開催日時】平成29年11月7日（火）10:00～17:00

11月8日（水）10:00～17:00

【開催場所】名古屋大学 野依記念学術交流館

（名古屋市千種区不老町名古屋大学）

地下鉄名城線 名古屋大学 2番出口より徒歩4分

### 【内容】

（1）開会式 11月7日（火）10:00～10:20

（2）基調講演 7日（火）10:20～11:20

講師：農林水産省 農林水産技術会議事務局会議 研究総務官 菱沼義久 氏

講演名：「生物機能の高度活用による新たな農業と新産業の創出」

(3) 成果発表 7日(火) 午前、午後

大学・公設試・企業・高校

(4) 特別講演 8日(水) 13:00~14:00

講師：愛知学院大学教授 大澤 俊彦 氏

講演名：「農林水産物・食品の機能性と健康長寿社会」

(5) あいち産科技セ・食品工業技術センター セミナー 8日(水) 14:00~15:30

(6) パネル等の展示 7日(火) 10:00~8日(水) 17:00

大学・公設試・高校・企業等研究成果、6次産業化新製品等の発表

(7) ポスターセッション 7日(火) 午後、8日(水) 午後

(8) 相談コーナー開設 7日(火) 16:00~17:00

農林水産省産学連携支援コーディネーターが対応

【出展募集要領】 <http://www.biotech-tokai.jp/archives/1469>

【参集範囲】 アグリビジネス創出フェアの展示・発表等にご関心のある方はどなたでもご参加ください。異分野のご専門の皆様もぜひご参加ください。

【主催】 特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

【共催】 NPO法人近畿アグリハイテク、あいち産科技セ・食品工業技術センター

【後援】 名古屋大学大学院生命農学研究科、農研機構中央農業研究センター

公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会

【出展】 研究機関・企業・団体等：70ブース(予定)

【問い合わせ先】 特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 事務局(大石、道村)

TEL&FAX : 052-789-4586

E-mail : bio-npo2@y4.dion.ne.jp (道村)

☆平成29年度第3回セミナー

～ICT、IoT等を活用したスマート農業の展開と課題～

【開催日時】 平成29年11月21日(火) 13:30~17:00

【開催場所】 ウィンクあいち(愛知県産業労働センター) 10階会議室(1008会議室)  
(名古屋市中村区名駅4丁目4-38)

・JR名古屋駅桜通口から ミッドランドスクエア方面 徒歩5分

・ユニモール地下街 5番出口 徒歩2分

【内容】

1. あいさつ：本セミナーの概要説明 13:30~13:40

2. 講演

1) 衛星・ドローンによるリモートセンシングのスマート農業への活用(13:40~14:25)

農研機構 農業環境変動研究センター 井上 吉雄 氏

休憩 (14:25~14:35)

2) 施設栽培における環境制御関係

(1) 環境モニタリングシステム「あぐりログ」による産地内情報共有

(14:35~15:05)

愛知県農業総合試験場園芸研究部次世代施設野菜研究室 番 喜宏 氏

(2) プロファームを活用した環境モニタリングと環境制御 (15:05~15:35)

株式会社デンソー 新事業推進部 木股 光善 氏

(3) 生産管理における「食・農クラウドAkisai」の活用 (15:35~16:05)

富士通株式会社 西日本営業本部東海支社 公共営業部 上田 太郎 氏

休憩 (16:05~16:15)

3) 畦畔除草ロボットの開発 (16:15~17:00)

農研機構 西日本農業研究センター 傾斜地園芸研究領域 中元 陽一 氏

3. 情報交流会 (17:15~18:30)

参加費 2,500円 場所 1008会議室

【主催】特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会

【参加申込等】講演会は参加費無料。

☆その他の行事等

○競争的資金説明会: 1月中旬

○情報誌「バイオテック東海」: 12月発行予定

◆2◆ 東海地域で開催されるセミナー・シンポ・会議等

☆10年後への中山間地の農業像 (日本作物学会)

日本作物学会は、第244回講演会シンポジウムを下記の通り、岐阜大学で開催します。

【開催日時】2017年9月14日(木) 13時~17時20分

【開催場所】岐阜大学 講堂

【実施内容】

- ・第1部 10年後への中山間地域社会・中山間地域農業(3課題の講演)
- ・第2部 地域資源と生きる中山間地域農業(4課題の講演)
- ・第3部 総合討論 パネルディスカッション

【開催案内】<http://www.cropscience.jp/meeting/244/symposium.html>

【チラシ】[http://www.cropscience.jp/meeting/244/sympo\\_poster.pdf](http://www.cropscience.jp/meeting/244/sympo_poster.pdf)

【入場料】無料

【お問い合わせ先】岐阜大学応用生物科学部 シンポジウム・オルガナイザー 松井 勤

TEL: 058-293-2967 E-mail: [h29gifucropsci@gmail.com](mailto:h29gifucropsci@gmail.com)

.....  
☆農研機構 果樹茶業研究部門 金谷茶業研究拠点一般公開

【開催日時】平成29年9月20日(水) 9:30~15:00

【開催場所】農研機構 果樹茶業研究部門 金谷茶業研究拠点  
(静岡県島田市金谷猪土居2769)

【開催案内】<http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2017/07/076191.html>

【参加費】無料、事前申込不要(但し、団体見学の場合は事前に連絡)。

【お問い合わせ先】農研機構 果樹茶業研究部門 金谷茶業研究拠点

TEL: 547-45-4101 E-mail: [cha-koukai@ml.affrc.go.jp](mailto:cha-koukai@ml.affrc.go.jp)

.....  
☆岐阜大学応用生物科学部公開講演会 パンシンポジウム2017

【開催日時】平成29年9月26日(火) 13:00~17:35

【開催場所】岐阜大学サテライトキャンパス  
(JR岐阜駅前岐阜スカイウイング37・東棟4階)

【開催案内】<http://www.abios.gifu-u.ac.jp/lifescience/symposium2017.html>

【ポスター】[http://www.abios.gifu-u.ac.jp/lifescience/file/sympo2017\\_3.pdf](http://www.abios.gifu-u.ac.jp/lifescience/file/sympo2017_3.pdf)

【参加費】無料

【申込み】9月25日(月)までに、申し込みフォーム(下記のURL)からお申込みください。URL: <https://yabets.heteml.jp/form/Sympo2017.html>

※氏名と連絡先(メールアドレス、電話番号など)をお知らせいただき、  
下記の申し込み先宛に直接送信いただいても結構です。

※当日参加も歓迎

【お申込み先・お問い合わせ先】

岐阜大学応用生物科学部応用生命科学課程 西津貴久

電話: 058-293-2888(直通)

E-mail: [fpel.gifu@gmail.com](mailto:fpel.gifu@gmail.com)

.....  
☆平成29年度野菜花き課題別研究会

「野菜のゲノム情報を活用した育種選抜の現状と課題」

【開催日時】平成29年10月25日13:00~26日12:00

【開催場所】アスト津 4階アストホール  
(三重県津市羽所町700) TEL: 059-222-2525

【開催案内】<http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2017/07/076214.html>

【参集範囲】国立研究開発法人および公立試験研究機関 野菜研究担当者  
日本種苗協会 関係者  
国および地方自治体 野菜行政・普及担当者

その他、野菜花き研究部門長が認めた者

【参加費】 無料、定員250名（但し、希望者多数の場合は先着順）

【情報交換会】 会費 6,000円、10月13日までに下記により送金して下さい。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2017/07/076214.html>

【お問い合わせ先】 野菜花き課題別研究会事務局

E-mail:kadaibetsu2017@ml.affrc.go.jp

・研究会全般について

野菜育種・ゲノム研究領域 ゲノム解析ユニット(布目)

電話：050-3533-4615 ファックス：059-268-1339

・研究会参加申し込みについて

企画管理部企画連携室交流チーム(野田・山本)

電話：029-838-6599・6603

・情報交換会について

企画管理部安濃企画連携室企画連携チーム(真柄)

電話：050-3533-3828

.....

☆第19回全国山羊サミット in ぎふ

【開催日時】 1日目：平成29年11月4日（土）9時～17時 交流会18時～20時

2日目：11月5日（日）10時～12時

【開催場所】 1日目：シティホテル美濃加茂（岐阜県美濃加茂市太田町2565-1）

2日目：日本昭和村（岐阜県美濃加茂市山之上町2292番地1）

【開催案内】 <http://japangoat.web.fc2.com/news.html#summit2017>

【内容】 1日目

基調講演

I. 美濃加茂市における山羊さん除草およびその関連事業の取組み（仮）

有限会社 フルージャック代表 渡辺祥二 氏

II. 学校における動物ふれあい教育の意義と取組み（仮）

元美濃加茂市立蜂屋小学校校長 井戸千恵子 氏

一般発表

I. 山羊の飼育管理と衛生、II. 山羊による地域活性、

III. 一般講演（募集演題）

2日目

I. 人工授精・周産期管理、II. 防疫管理、

III. 山羊によるキャラメルづくり（要予約）

【主催】 「第19回全国山羊サミット in ぎふ」実行委員会及び全国山羊ネットワーク

【参加費】 2,000円／人（講演要旨代、会場費等）、交流会 5,000円／人

昼食 700円／人、 定員300人 交流会は定員200人

【申込み】 申込期限 9月30日、上記の「開催案内」を開き、申込書に記入し下記の「申込先 お問い合わせ先」にお送り下さい。

【申込先 お問い合わせ先】

全国山羊サミット in ぎふ実行委員会事務局 八代田真人

E-mail: [yagi.summit@gmail.com](mailto:yagi.summit@gmail.com)

携帯電話：090-5101-9591 FAX：058-293-2867

.....

☆名古屋大学公開講座「日本の森林と都市の持続的調和」

【開催日時】平成29年5月～6月及び9月～12月（計7回）

【開催場所】名古屋大学、豊田森林組合、ポートメッセなごや

【都市の木質化講座2017ポスター】

[http://www.nagoya-u.ac.jp/international/upload\\_images/toshinokisituka2017.pdf](http://www.nagoya-u.ac.jp/international/upload_images/toshinokisituka2017.pdf)

【主催】名古屋大学大学院生命農学研究科・都市の木質化プロジェクト

【対象者】林・林産・建築業関係者、行政関係者、一般市民（大学生以上）

【定員】30～40名

【参加費】テキスト代 1000円（7回分）、受講料無料（保険料・オプションは別途）

【申込み方法】上記のポスター（pdf）に書かれています。

【都市の木質化プロジェクト】<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~biomeng/toshimoku/>

【問い合わせ先】名古屋大学大学院生命農学研究科 生物材料工学研究室

TEL：052-789-4146・4148 FAX：052-789-4147

E-mail: [woodismnagoya@gmail.com](mailto:woodismnagoya@gmail.com)

お申し込みは、E-mailにてお送り下さい。

### ◆3◆ 地域外でのセミナー・シンポ・会議等

☆近畿地域マッチングフォーラムの開催（農研機構西日本農業研究センター）

近年、地球温暖化の影響が、高温などによる作物の生育不良や品質低下、生理障害、病害虫の変化など、農業生産の様々な面で現れています。本フォーラムでは、農産物の生産安定に向けて、気象変動に適応するための技術開発事例が紹介されます。

【開催日時】平成29年9月20日（水）11時～17時

【開催場所】「京都テルサ 東館」3F大会議室及びD会議室

（京都市南区東九条下殿田町70番地）（TEL：075-692-3400）

【主催】農林水産省大臣官房政策課技術政策室、農研機構西日本農業研究センター

【開催内容】

- ・第1部 講演 7課題
- ・第2部 ポスター発表(17)～マッチング（技術相談を含む）



・第3部 パネルディスカッション(講演者)

【開催案内】 農研機構の下記URLの開催案内をご覧ください。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/list/2017/07/076463.html>

【チラシ】 <http://www.naro.affrc.go.jp/event/files/warc-ivent-20170727a1.pdf>

【参加】 募集定員150名、参加費無料

参加申込：平成29年8月30日（水）までに、上記の開催案内に付いている参加申込書のファイルを取り出してご記入の上、メール又はファックスでお送り下さい。

申込先：E-mail: [toybox@ml.affrc.go.jp](mailto:toybox@ml.affrc.go.jp) FAX: 084-923-5215

.....

☆アグリビジネス創出フェア2017（東京ビッグサイト）

平成29年度のアグリビジネス創出フェア2017は、下記の通り、10月4日～6日に東京ビッグサイトで開催されます。

【開催日時】 平成29年10月4日（水）～6日（金）両日とも10:00～17:00

【開催場所】 東京ビッグサイト 東7ホール（東京都江東区有明3-11-1）

【入場料・出展料】 無料（事前又は当日登録が必要）

【開催規模】 予定参加者数延べ35,000人以上、出展300小間程度（うち一般の出展者210小間程度）

【ホームページ】 <http://agribiz-fair.jp/>

【お問い合わせ】 アグリビジネス創出フェア2017事務局  
（一般社団法人日本能率協会 産業振興センター内）

TEL:03-3434-1988 FAX:03-3434-8076 E-mail: [abf@jma.or.jp](mailto:abf@jma.or.jp)

.....

○農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センターが開催するセミナー等の情報は、下記のURLの通りです。

<http://www.affrc.maff.go.jp/tsukuba/top/>

○国立研究開発法人農研機構が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.naro.affrc.go.jp/event/index.html>

○公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会が開催するイベント情報のURLは下記の通りです。

<http://www.jataff.jp/>

#### ◆4◆ 平成29年度競争的研究資金等について

☆「知」の集積と活用場による研究開発モデル事業（平成29年度第2次公募）

（農研機構・生物系特定産業技術研究支援センター）

[http://www.naro.affrc.go.jp/brain/knowledge/koubo/h29\\_2nd/index.html](http://www.naro.affrc.go.jp/brain/knowledge/koubo/h29_2nd/index.html)

分野等：「知」の集積と活用の中で行われる新たなオープンイノベーションによる研究開発の取組を支援するため、『知』の集積と活用による革新的技術創造促進事業」として、民間企業等との連携を促すマッチングファンド方式による新たな支援の仕組みを導入した研究開発について、公募により研究を委託する。

公募期間：平成29年8月16日～9月15日

.....  
☆平成30年度科学研究費助成事業 ー科研費ー (文部科学省)

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shinkou/hojyo/boshu/1394559.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/boshu/1394559.htm)

分野等：新学術領域研究、特別研究促進費

公募期間：平成29年9月1日～11月8日

.....  
☆平成30年度科学研究費助成事業 ー科研費ー ((独) 日本学術振興会)

[https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/03\\_keikaku/download.html](https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/03_keikaku/download.html)

分野等：特別推進研究、基盤研究、挑戦的研究、若手研究

公募期間：平成29年9月1日～11月8日

.....  
☆研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) ステージⅢ：NexTEP-タイプ (JST)

<http://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h29nextep-a-1.html>

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～11月30日 (第2回締切)

30年3月30日 (第3回締切)

.....  
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度未来創造ベンチャータイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_mirai01.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_mirai01.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発のうち、ベンチャー企業が行う、未来の産業創造に向けたインパクトの大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～11月30日 (第2回締切)

30年3月30日 (第3回締切)

.....  
☆産学共同実用化開発事業 NexTEP 平成29年度一般タイプ (JST)

[http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu\\_ippan01.html](http://www.jst.go.jp/jitsuyoka/bosyu_ippan01.html)

分野等：大学等の研究成果に基づくシーズを用いた、企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を後押しすることで、大学等の研究成果の企業化を目指す。

公募期間：平成29年3月31日～11月30日（第2回締切）  
30年3月30日（第3回締切）

.....  
☆平成29年度戦略的情報通信研究開発推進事業（SCOPE）（総務省）  
若手ICT研究者等育成型研究開発（若手研究者枠・中小企業枠）

[http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/scope/](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/scope/)

分野等：ICT分野の研究者として次世代を担う若手人材を育成することや中小企業の斬新な技術を発掘するために、若手研究者又は中小企業の研究者が提案する研究開発課題。

公募期間：平成29年7月5日～10月13日（若手研究者枠）

.....  
☆平成29年度ICTイノベーション創出チャレンジプログラム(I-Challenge!)（総務省）

[http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/01tsushin03\\_02000206.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin03_02000206.html)

分野等：情報通信審議会最終答申において、「2030年に求められるサービス像」を実現するために必要となる「国が取り組むべき技術開発分野と具体的プロジェクト」として、次の7つの具体的プロジェクトが例示されている。

- ① いつでもどこでも快適ネットワーク技術
- ② G空間高度利活用基盤技術（Tokyo 3D Mapping）
- ③ 以心伝心ICTサービス基盤
- ④ フレンドリーICTサービス技術
- ⑤ 社会インフラ維持管理サービス技術
- ⑥ レジリエント向上ICTサービス技術
- ⑦ 車の自動走行支援基盤技術

本事業の公募対象となるのは、上記7つのプロジェクトに該当する課題をはじめ幅広くICTそのものの技術や、農業、医療、交通、教育などの異分野とICTとの融合をはかるなどにより、社会へ大きなインパクトをもたらす可能性を持つ、革新的な技術やアイデアを活用した新事業の創出を目指し、概念検証に取り組む技術開発課題。

公募期間：平成29年4月4日～30年3月30日

<民間の競争的研究資金>

当研究会のホームページに掲載した公募情報からご覧ください（下記のURL）。

「農林水産・食品分野の公募情報」：<http://www.biotech-tokai.jp/news/public>

## ◆ 5 ◆ 新技術情報について

### ☆畜産関係

- ・開放型畜舎と堆肥舎を対象としたネット利用による脱臭技術

本研究成果は、群馬県畜産試験場が研究総括を務める共同研究グループによって生み出されました。畜産経営に起因する苦情の過半数は悪臭に関連するものとなっています。畜産経営の大部分を占める開放型施設では、臭気の拡散を防止する有効な技術がありませんでした。そこで、本研究では、既存の開放型施設において簡易かつ低コストで導入可能な臭気対策技術として、ネットを用いた臭気対策技術の開発を目指しました。

室内実験では、10mmマス目、30cm四方のポリエステルネットを使用して、クエン酸水溶液で湿潤したネットを張ったところ、20ppmのアンモニアを90%除去できました。風洞実験では、5mmマス目、幅2m、高さ1.5mのネットで20ppmのアンモニアを約40%除去できました。また、畜産施設の開口部に展張したネットをクエン酸水溶液で均一に湿潤させられる親水化加工を施した専用ネット、およびネットに均一にクエン酸水溶液を散水する散水装置を開発しました。上記の装置を用いて、試験用堆肥舎において牛糞の切り返し時に発生するアンモニアを除去できることを確認しました（施設内濃度25ppmに対し、ネットの外側では4ppmに低下）。3～5年後には、開発技術を商品化し、畜産農家への普及を図る予定です。

農林水産省「研究紹介2017」掲載記事から抜粋（この冊子は当研究会にもございます）  
農林水産技術会議事務局 プロジェクト計画：

[http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/26077c\\_gaiyou.p](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/26077c_gaiyou.pdf)

[df](#)

### ☆林業・林産関係

- ・薬用系機能性樹木の生産効率化手法の開発

本研究成果は、国立研究開発法人森林総合研究所が研究総括を務める共同研究グループによって生み出されました。国内に自生し、生薬原料となる薬用樹木であるカギカズラ、キハダ等を対象に、優良個体の選抜、増殖、栽培による医薬品原材料の生産効率化のための手法の開発を行いました。

カギカズラでは、個体収集と保存を行い、69個体で生薬原料としてのアルカロイド含有率（リンコフィリン及びヒルスチン）が日本局方基準を満たすことを明らかにしました。また、キハダでは、成長が早く、ベルベリン含有率が日本局方基準を満たす11個体を選抜しました。更に、カギカズラの組織培養及び挿し木による優良個体のクローン化のための技術開発を行いました。将来的に、実需者ニーズを満たす多様な品種を提供し、カギカズラとキハダを基原とする生薬の国内栽培の拡大に寄与していきます。

農林水産省「研究紹介2017」掲載記事から抜粋（この冊子は当研究会にもございます）  
森林総合研究所 研究成果：国産の「カギカズラ」で漢方薬を作る ―組織培養で増やし、  
枝の薬用成分の濃度を探る―

[http://www. ffpri. affrc. go. jp/ftbc/research/documents/p68-69.](http://www.ffpri.affrc.go.jp/ftbc/research/documents/p68-69.pdf)

[pdf](#)

農林水産技術会議事務局 プロジェクト計画：

[http://www. affrc. maff. go. jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/26063b\\_gai](http://www.affrc.maff.go.jp/docs/gaiyou/pdf/pdf/26063b_gaiyou.pdf)

[you. pdf](#)

.....

## 編集後記

先月号から今月号までにあった出来事としては、スポーツでは、サッカー・ワールドカップ・アジア予選で、これまでアジア予選で7回戦って1度も勝ったことのないオーストラリアに2-0で見事勝利し、また、柔道、レスリング等の世界選手権で日本選手がめざましい活躍をして金メダルを多数取り、国民は拍手喝采し、平和を感じました。一方、北朝鮮が大陸間弾道ミサイルを発射し、日本上空を飛び越して太平洋に落下し、また、山容が変わるほどの核爆発実験を行い、日本国内ではJ-アラートが広域に鳴り、避難が呼びかけられるなど、緊迫の度合いが強まっています。事態がエスカレートして、万が一にも、偶発的にでも戦争状態に陥ることのないように冷静に対応していただきたいものです。

ところで、最近読んだ本に河野博子著「里地里山エネルギー ～自立分散への挑戦～」(中公新書ラクレ、2017年1月発刊)があります。著者は、新聞記者として、全国各地取材し、再生可能エネルギーに関する新聞記事を書いてきました。しかし、様々な会合などで、再生エネルギーに対する否定的な考えやネガティブな評価を聞かされることが多く、このことが、本書を書く動機となったと述べています。

本書では、まず、再生可能エネルギーの導入・拡大をめぐる日本や世界の状況について述べています。IEA(国際エネルギー機関)によると、2000年から2014年にかけての再生可能エネルギーへの世界の投資額は2.5兆ドルにのぼり、化石燃料による火力発電と原子力発電を合わせた発電所への投資額を上回り、設備容量で1000GWの新たな再生可能エネルギーによる発電設備が生まれたとしています。また、今後2040年までの見通しでは、世界の総発電量の3分の1が再生可能エネルギーによるものとなると推計され、再生可能エネルギーによる発電設備への投資は2040年時点で7兆ドルにのぼり、あらゆる発電所へのすべての投資の約60%を占めるとされています。日本政府も、IEAなどの国際機関と同様に、再生可能エネルギーは適切な政策を行うことにより、コスト面でも他の電源に十分伍していけると見ているようです。また、地球温暖化防止のための温室効果ガスの排出削減策では特に電力部門からの排出削減の重要性(世界のCO2排出量の40%以上が電力部門から排出されている)、および再生可能エネルギーの安全保障策としての重要性などについても述べています。

更に、本書では、地域における再生エネルギーの取組みとして5つの地域の事例について紹介し、スマート防災エコタウンと新電力、風力発電、蓄電設備のある太陽光発電、バイオマス利用、小水力発電などを取り上げています。緊急時に、あるいは、災害対策としてライフラインが途絶した状況下での自立分散型の再生可能エネルギーシステムの重要性、地産地消の再生可能エネルギー利用による地域における雇用確保、売電等による利益を地域に還元して地域活性化に役立てる試みなど、様々な動きが生き生きと述べられています。このような取組みは、地域が一丸となって進める必要があります。また、企業にとっては、停電時や災害時の対策として蓄電、発電、再生エネルギー利用等をリスク管理の一環として考えていく必要があります。

===== 《メールマガジンに関するお問い合わせは》 =====

特定非営利活動法人東海地域生物系先端技術研究会 松井・道村

TEL&FAX : 0 5 2 - 7 8 9 - 4 5 8 6

E-mail : bio-npo2\*y4.dion.ne.jp (\*を@に書き換えてください)

URL <http://www.biotech-tokai.jp/>